



故 山口恵三先生

公益社団法人日本化学療法学会 名誉会員

1945年5月29日 生
2019年1月7日 逝

故 山口恵三先生（2019年1月7日）

生年月日 1945年5月29日

【略歴】

1970年 長崎大学医学部卒業
1980年 同 第二内科 助手
1981年 同 検査医学 講師
1990年 東邦大学医学部 微生物・感染症学講座 教授

【学会歴・学術講演会歴】

1990年 評議員
1999年～2004年 理事
2008年～2010年 監事
2009年 第57回 日本化学療法学会総会 総会長

【受賞歴】

2004年 小島三郎記念文化賞 受賞
2011年 第22回 志賀 潔・秦 佐八郎記念賞 受賞
「臨床微生物学トランスレーショナルリサーチの推進と確立に向けた基盤研究」

山口恵三先生を偲んで

2019年1月7日、東邦大学名誉教授 山口恵三先生が73歳でご逝去なされました。山口先生は、1999年～2004年には理事、2008年～2010年には監事として日本化学療法学会の発展に貢献されました。2009年には第57回日本化学療法学会総会を開催されています。一連の学会活動と貢献により、2011年には第22回志賀・秦佐八郎記念賞を受賞されています。山口先生の訃報に接して、学会・医療関係者、産業界・行政から多数の弔意が寄せられていることから生前のご業績とお人柄が偲ばれます。個人的には、1985年の長崎大学医学部第2内科への入局から、1990年東邦大学への転任以来、30年の長きにわたってご指導頂きました。臨床や研究に対する考え方だけでなく、人間としての矜持や生き方まで、今の私の核心は山口先生の教えに導かれたものであると感じています。感染症・研究の面白さ、何よりも“症例の中の真実を見逃さない眼”の重要性をご教示いただきました。また、過去の報告を参考にしながらも自らの手でデータを出していくことの大切さ、ガイドラインを超えるエビデンスを創りだすこと責任、山口先生は数々の慧眼をもって日本化学療法学会の進むべき方向性を示して下さいました。山口先生と一緒に仕事をさせていただいた時間、先生から頂いた一言一言が私の人生の宝物となっています。晩年はご病気のために思うような活動ができずに苦しんでおられたのが残念でなりません。しかし、山口先生が育てて下さった次世代・次々世代の人材が、間違いなく先生の意志と思い・夢を継承しています。これからの日本化学療法学会のさらなる発展をどうぞ見守っててください。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

東邦大学医学部微生物・感染症学講座 教授
舘田一博